

東京都教育委員会の施策



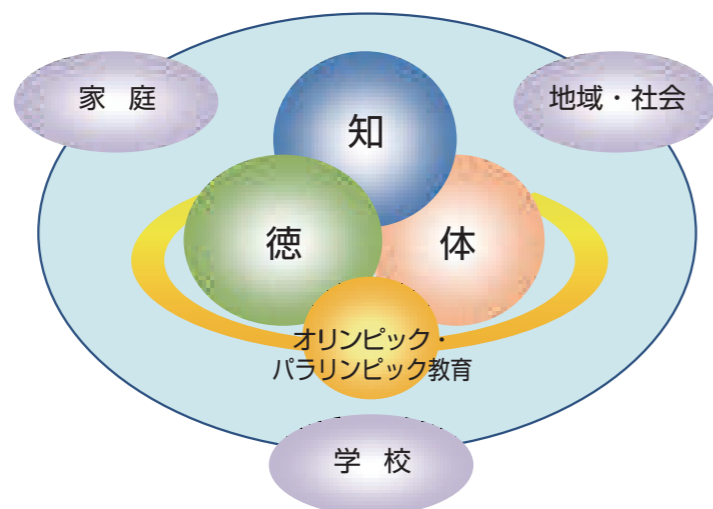
東京都教育ビジョン (第3次・一部改定) (平成28年4月)

<基本理念>

社会全体で子供の「知」「徳」「体」を育み、グローバル化の進展など変化の激しい時代における、自ら学び考え行動する力や社会の発展に貢献する力を培う。

| 柱 | 取組の方向 |
|------------------|-----------------------|
| 知 | 1 個々の子供に応じたきめ細かい教育の充実 |
| 徳 | 2 世界で活躍できる人材の育成 |
| 体 | 3 社会的自立を促す教育の推進 |
| オリンピック・パラリンピック教育 | 4 子供たちの健全な心を育む取組 |
| 学校 | 5 体を鍛え健康に生活する力を培う |
| 家庭 | 6 オリンピック・パラリンピック教育の推進 |
| 地域・社会 | 7 教員の資質・能力を高める |
| | 8 質の高い教育環境を整える |
| | 9 家庭の教育力向上を図る |
| | 10 地域・社会の教育力向上を図る |

東京都教育ビジョン 第3次・一部改定の概念図



主要施策

知 基礎・基本の定着と学ぶ意欲の向上

【東京ベーシック・ドリル】

東京ベーシック・ドリルは、基礎的・基本的な内容を繰り返し学習できるようにまとめた教材で、国語、社会、算数・数学、理科、英語の5教科に分かれています。



算数・数学では、学年ごとに「診断シート」「解説シート」「練習シート」があります。

【東京ベーシック・ドリルソフト】

東京ベーシック・ドリルを電子化し、自動採点や児童・生徒の学習状況の把握等を行うことができるとともに、放課後の補習や家庭学習でも活用できるようにし、知識・技能の確実な定着を図っています。

東京ベーシック・ドリル

知 理数教育の推進

【小学生科学展・中学生科学コンテストの開催】

自ら決めたテーマについて深く研究した成果を展示・発表する小学生科学展や理科・数学等に対する意欲・能力を更に伸ばし、能力を競い合う中学生科学コンテストを開催しています。

【高等学校における理数アカデミー校・理数イノベーション校、理数研究ラボ】

中学段階からの6年間一貫した教育により、科学技術系人材の素地を育成する理数アカデミー校や、大学や研究機関との連携により、最先端の実験・講義を行う理数イノベーション校等に加え、理数への興味・関心をもつ生徒が研究者と高度な研究活動を行う理数研究ラボを実施しています。



知 「使える英語」を習得させる実践的教育の推進

【小学校における英語教育の推進】

小学校3・4学年を対象に外国語活動を円滑に実施できるよう、教師用指導資料を作成しました。各学校で活用されています。

【中学校英語教育推進モデル地区の指定】

新学習指導要領による小学校英語との接続を図った中学校英語教育を推進するため、モデル地区を指定し、英語教育の取組を推進しています。

【高等学校における英語教育の充実】

全都立高校にJETプログラムの外国人英語指導者を配置するほか、「東京グローバル10」や「英語教育推進校」を指定し、「使える英語力」の向上に向けた取組を行っています。



JETプログラムによる外国人英語指導者

徳 道徳心や社会性を身に付ける教育の推進

【道徳の教科化に向けた先行的な取組の推進】

「東京都道徳教育推進拠点校」を設置し、小・中学校における道徳の教科化に向けた、各学校における先行した取組を推進しています。また、東京の子供たちの規範意識や思いやりの心など豊かな心を育成するために、都内公立小・中学校等の全児童・生徒に配布する「東京都道徳教育教材集」の活用を推進し、各学校の教育活動全体を通じた道徳教育の充実を図っています。



徳 いじめ、暴力行為、自殺等防止対策の強化

【いじめ総合対策【第2次】】

いじめ防止等の取組の強化・徹底を図るため、いじめ総合対策【第2次】を策定しています。

<上巻 学校の取組編>

4つの段階(未然防止→早期発見→早期対応→重大事態への対応)に応じた具体的な取組

<下巻 実践プログラム編>

いじめに関する授業「学習プログラム」、校内研修の取組事例を示した「教員研修プログラム」



【情報サイト・アプリケーション「考えよう!いじめ・SNS@TOKYO」】

子供がいじめを相談することや、SNSに関するトラブルについて考えるために、情報サイト・アプリケーションを東京都教育委員会が作成・開発しました。学校における授業等でも活用されています。

★詳しくはウェブサイトで!

考えよう!いじめ SNS

体 体力向上を図る取組の推進

【アクティブプランto 2020】

2020年に行われるオリンピック・パラリンピック競技大会に向けた教育の一環として、総合的な子供の基礎体力向上方策(第3次推進計画)を策定し、都内の全公立学校で子供たちの体力向上を推進しています。

- ・公立学校の全児童・生徒を対象に、平成23年度から「東京都統一体力テスト」を実施しています。
- ・中学校62校を「スーパーアクティブスクール」に指定し、体力向上に向けた取組を推進しています。
- ・小学校20校を「アクティブライフ研究実践校」に指定し、体力向上と健康教育を推進しています。



東京都の施策 オリンピック・パラリンピック教育



教育の基本的枠組



重点的に育成すべき5つの資質



- ボランティアマインド**
社会貢献への意欲や他者を思いやる心などのボランティアマインドを醸成し、自尊感情を高める。
- 障害者理解**
共生社会を実現するため、多様性を尊重し、共に助け合い、支え合って生きていく力を身に付ける。
- スポーツ志向**
様々なスポーツを体験し、フェアプレーやチームワークの精神を身に付け、体力向上や健康づくりに自ら意欲的に取り組む態度を身に付ける。
- 日本人としての自覚と誇り**
日本や東京の良さを十分理解するとともに、規範意識や公共の精神等を学び身に付ける。
- 豊かな国際感覚**
英語力や世界各国の人々と積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度、また世界の多様性を受け入れる力を身に付ける。



5つの資質を推進する4つのプロジェクト

- 東京ユースボランティア**
各学校における社会奉仕の精神を養う取組を充実・拡大させ、自尊感情を高めるため、東京ユースボランティアバンクの情報を活用するなどして、発達段階に応じたボランティア活動を計画的・継続的に行う。
取組の例：地域清掃、地域行事、地域防災活動、スポーツ大会、障害者・高齢者福祉施設等でのボランティア活動
主に育成する資質：ボランティアマインド、障害者理解
- スマイルプロジェクト**
共生社会の実現に向け、子供たちが、お互いの人格や個性について理解を深め、思いやりの心を育てる取組を行う。
取組の例：障害者スポーツの観戦・体験、スポーツを通じた特別支援学校と地域の学校との交流
主に育成する資質：ボランティアマインド、障害者理解、スポーツ志向
- 夢・未来プロジェクト**
オリンピックやパラリンピアン等のアスリート等と子供たちが直接交流する取組により、子供たちがオリンピック・パラリンピックのすばらしさを実感し、スポーツへの関心を高め、夢に向かって努力したり困難を克服したりする意欲を培う。
取組の例：特別講演、競技紹介、実技指導、外国人アスリートに対する日本文化の紹介
主に育成する資質：ボランティアマインド、障害者理解、スポーツ志向、日本人としての自覚と誇り、豊かな国際感覚
- 世界ともだちプロジェクト**
東京2020大会参加予定国・地域を幅広く学び、実際の国際交流に発展させる取組を行う。この取組により、世界の様々な人種や言語、文化、歴史などを学び、世界の多様性を知るとともに、様々な価値観を尊重することの重要性を理解する。
取組の例：調べ学習を主とする国際理解教育、大使館や留学生、在住外国人との交流、海外の学校とのメール・手紙等のやり取り、子供たちの相互交流
主に育成する資質：日本人としての自覚と誇り、豊かな国際感覚

3つのレガシー



- 体験や活動を通して、子供たち一人一人の心と体に、人生の糧となる掛け替えのないレガシーを残していく。
- この教育で蓄積されるノウハウや人的ネットワーク等を活用し、学校における多様性への理解や国際交流、ボランティア活動などの取組を大会後も長く続く教育活動として発展させていく。
- 子供たちだけでなく、家庭や地域を巻き込んだ取組により、大人たちのボランティアマインドや障害者理解を高め、共生・共助社会の形成につなげていく。
更に知りたい方は以下 URL へアクセス！ <https://www.o.p.edu.metro.tokyo.jp/>



オリンピック・パラリンピック教育（現場の声）



元日本代表の体操選手ややり投げの選手が来校されて、直接児童に体操を教えていただいたり、講演会ややり投げの実演をしていただきました。
「世界ともだちプロジェクト」では、トルコ、ソマリア、シンガポール、トリニダードトバゴ、オランダについて、ゴミ処理や教育制度、文化などの日本との違いについて調べて発表を行いました。
校内では、「オリ・パラカレンダー」を作成し、今年のテーマである「伝えよう日本の和と輪」を基に学習を進めています。3年生では、狛江市の特産品である枝豆、国語の「姿を変える大豆」の単元から、地域の農家やパン屋さんと協力した商品開発を進めました。

橋本 依純 [教諭] 狛江市立狛江第三小学校 東京都出身



子供たちの「スポーツ志向」を高めるために、元サッカー日本代表の選手に来校していただき、全校講演会を開きました。プロサッカー選手になって来日したきっかけ、サッカー選手として感じてきた苦労や喜びを、クイズを交えながら話していただき、大変盛り上がりしました。
また、卓球世界選手権(ユニバーシアード)金メダリスト(調布市在住)を全校朝礼にお招きし、トークイベントを実施しました。メダリストの方は、粘り強く取り組むことの大切さについてお話ししてくださいました。
ボランティアマインドの醸成としては、以前から実施している保護者や地域の方と連携した地域清掃ボランティアについて、全学年が自らの意思で参加する活動として取り組んでいます。

加藤 真由子 [指導教諭] 調布市立第五中学校 東京都出身



本校では、障害者理解の取組として、パラリンピアンをお招きし講演をしていただきました。パラリンピックに出場した時のお話やその時に獲得された実物のメダルを見て生徒は、感動していました。講演後の感想文からは、生徒が感銘を受けたことが伝わってきました。
また、英語科の授業では、「Welcome to Tokyo」という教材を使って、授業を行っています。日本独自の社会のシステムや文化等について、付属のDVDを使って視覚的に、楽しみながら、学んでいます。日本人として、日本について学ぶ大切な機会になっています。もちろん、英語力の向上にも役立っています。英語表現を身に付け、海外から日本を訪問される人を助けたり、日本について説明できるよう学習しています。

井上 真吾 [教諭] 東京都立大森高等学校 奈良県出身



オリンピック・パラリンピック教育「世界ともだちプロジェクト」の一環として海外の高校生や高校教員との交流を積極的に行っています。
本校はSSH(スーパーサイエンスハイスクール)でもあるので、理数の研究について海外の高校生と情報交換する場面も多いです。
また、海外の姉妹校と交流を深めるために、テレビ会議システムを使って定期的な生徒同士の交流も行っています。

田中 義靖 [指導教諭] 東京都立戸山高等学校 東京都出身



交流校である八王子市立第七小学校で行われた「平成28年度夢・未来プロジェクト」に、本校の小学部6年生の児童が参加し、車いすバスケットボールのパラリンピアンにお話を伺いました。交通事故により車いすの生活になってからパラリンピアンとして活躍されるまでの気持ちの変化等も伺うことができ、大変有意義な時間となりました。
またレスリングのオリンピックや、大学のレスリング部の皆さんをお招きして、レスリングのルール説明やゲームを行っていただき、本物に触れる貴重な機会となりました。
本校は給食でも、様々な国を身近に感じ、理解を深めるために、オリパラメニューとして提供し、その国の文化や食べ物の紹介を行っています。

後藤 淳 [主任教諭] 東京都立八王子特別支援学校 栃木県出身